



# 星と稲

伊米ヶ崎小学校 学校だより

<http://uonuma-school.com/school.com/ed03>

NO 9

発行日 令和元年 12月4日

発行者 校長 名塚高明

【星と稲の訓】 朝に星と載せて出て 勢め励みて 我が伊米ヶ崎校及び伊米ヶ崎村の発展と期さん

## みんなちがって みんないい！

12月10日は世界人権デーです。日本では12月10日を含む1週間（12月4日～12月10日）を人権週間と定めています。正しい人権感覚、人権意識は、グローバルな社会を生き抜く子供たちにとって、未来を切り開く土台となる資質です。6日の学習参観では、全学年で人権に関する授業を公開いたします。ぜひ、たくさんのご参観お待ちしております。もちろん、この期間だけでなく、学校では、子供たちの人権感覚、意識を育むための教育を推進してまいります。

人権週間にあたり、全校朝会において、子供たちに以下の話をしました。

～ 全校朝会での 校長講話 ～

「人権」とは、人が人らしく、幸せに生きる権利です。自由に遊び、好きなことを学ぶ権利、自分の思っていることを言うことができる権利などたくさんあります。しかし、人権が守られず、みんなが自分勝手な行動をしたらどうなるでしょう。悪口を言う、人のことをたたき、ける、人のものを壊す、仲間はずれにする…、そんな集団にいたら嫌ですね。そうは言っても、悪口はつい出てしまうことがありますね。悪口の中には、相手の心を深く傷つけ、人権を侵害してしまうものがあります。自分と違うこと、例えば、身体の特徴や行動特性について、外国人、障がいのある人、病気の人、お年寄りに対する差別の言葉は、言われた本人が直そうとしても直すことができないことであり、言ってはいけない言葉です。お互いに相手の立場を考え、思いやりの気持ちをもって相手に接する心が大切です。そういった心をもつことが人権を尊重することになります。

私の好きな話に『赤毛のアン』という話があります。図書室にも入っているので読んだ人もいると思います。物語の中に赤毛やそばかすをからかわれて、アンがつらい思いをする場面があります。そんなつらいことをアンは明るく乗り越え、成長していきます。しかし、アンは一人で乗り越えたわけではありません。親友のダイアナや友達が支えてくれたのです。一緒に悪口仲間になるか、悪口を言われた友達を守ってあげるか、どちらの立場が正しいか分かりますね。

「みんなちがって、みんないい」これは詩人の金子みすずさんのことばです。みんなそれぞれちがいががあります。一人として同じ人はいません。そのちがいを悪口の材料にするのではなく、個性として認めることが大切です。みんなちがって、みんないいんです。みんなには、その違いがもし病気や障がいであったとしたら、それを支援する人になって欲しいと思います。



## 各種コンクール 入選者紹介

### 【魚沼市子ども俳句コンクール】

特選 5年 米山 奏瑠 「ほたるでた もうすぐ私の たんじょうび」

秀作 6年 小林 心美 「ふうりんの 音にさそわれ 縁側に」

### 【宮 柊二記念館全国短歌大会】

秀逸 6年 山本 紗羅 「静岡の においがついた めいぐるみ においをかぐと 思い出すあの日」

### 【魚沼市教育美術展】

入選 1年 桑原 善 佐藤愛里花 2年 高橋 彩来 3年 上原 美月

4年 本間 煌希 5年 坂大 莉瑚 6年 米山 優里

## ありがとうございました！あおぼ学習発表会

11月6日、熊出没のため延期になった「あおぼ学習発表会」が行われました。平日にもかかわらず、大勢の方からお越しいただきました。参観された地域、保護者の皆様からは、子供たちの発表に対し、質問、意見、感想をたくさんいただきました。ありがとうございました。子供たちは質問を想定し、自ら問いかけて発表を準備し、本番に臨みました。よりよい答えを求めするために自他に問い直す学習過程は、今後ますます求められます。こういった学習を重ねることにより、子供たちに単に知識の習得にとどまらず、これから出会う困難や新たな事象に柔軟に対応できる思考力や表現力の育成に努めていきたいと考えています。

来年は、地域芸能祭と一緒にできることを願っています。



## いつまでもお元気で！さつまいもパーティー

### ～3学年総合学習「デイサービスの皆さんとの交流」～

11月12日、伊米ヶ崎デイサービスの皆さんと、一緒に植え、収穫したサツマイモをみんなで食べる交流会を行いました。3年生は総合的な学習で、年間を通して、校区にある小出特別支援学校やデイサービスのお年寄りと交流させてもらい、福祉について様々なことを学んでいます。子供たちは障がいのある友達やお年寄りに対して、最初は緊張していましたが、交流が深まるにつれ、自然に声をかけ、接していました。子供のうちから障がいをもつ人やお年寄りと接することが、バリアフリーの心情を育てるために大切であることを感じました。貴重な経験をさせてもらい感謝しています。

